

合宿型インターンシップを実施しました

今回のインターンシップは、広域から参加しやすいように4泊5日の合宿形式で実施。海外を含め53人の応募があり、8月に12人の学生を受け入れました。

北海道から九州まで、全国各地から集まった参加者のほとんどが安芸高田市を訪れるのは

初めて。市の誇りである神楽とサンフレッチェ広島の魅力を感じ、新鮮な視点でPRしてもらいました。市をよく知って地域のファン(関係人口)になってもらうこと、そして参加者の今後の人生がより良くなるきっかけとしてもらうことがインターンシップを実施した目的です。



お試しオフィス「緑の交流空間」(美土里町本郷)の男女別の宿泊棟に滞在し、参加者同士の交流を深めました。

ワーケーション



実習課題は「安芸高田市の持続可能なまちづくり」の政策提言。「緑の交流空間」のオフィス棟を活用してワーケーションを体験しました。

グループワーク



4人ずつのグループに分かれ、ディスカッションや市職員へのヒアリングを行ない、政策を練りました。

市長レクチャー



実習課題への取り組みに向けて、議論のコツやロジカルシンキングなど、社会でも役立つスキルや知識を市長がレクチャーしました。

市長との対話



石丸市長に直接聞きたいことを質問し、市政から日常的な事柄まで、活発な意見交換が行われました。

プレゼンテーション



市の部長級以上の職員が参加する幹部会議で一人ずつ自己紹介。さまざまな場所でいろいろな経験をしてきたインターンシップ生の個性が発揮されました。

キャリアデザイン



将来のキャリアを幅広く考える機会として、地域おこし協力隊や起業者、民間企業で働く方を講師に迎え、意見交換。市役所の若手職員も参加しました。

安芸高田市の魅力を体験してもらいました

インターンシップ生が感じた神楽とサンフレッチェ広島の魅力はこちら



神楽ドームでの神楽鑑賞では、公演前後に楽屋訪問で上河内神楽団の方々と交流しました。伝統文化を受け継ぐ皆さんから、神楽に対する思いを伺うことができました。



市民一丸となつてのサンフレッチェ広島応援イベント「安芸高田市DAY」では、スタッフ業務に加えて武者行列に参加することで、毛利の歴史にも触れました。

参加者の声

観光資源をこの目で見て、人々の生の声を聞く。濃密な体験の数々を通し、地方の課題を掘り起こし、可能性を探るといった実践的な経験ができました。もっと見たい!聞きたい!体験したい!の気持ちでいっぱいです! (東京大学 文学部4年)

私は、インターン生の中で唯一安芸高田市出身でした。日本全国から安芸高田市に集結し、この街をより良くするためにどうすべきか議論することができました。地元に向き合うことができた貴重な機会でした。 (島根大学 総合理工学部3年)

地域の方々や市役所各課の方々へのヒアリングを通して、地域の実情と課題を知れました。さらに、全国から集まった学生達とその課題について意見を交わすことで、地域振興に関する新たな知見を得ることができました。 (同志社大学 政策学部3年)

このインターンシップは私の人生の転機となる出来事でした。今まで社会について何も知りませんでしたが、参加後は新聞を読み勉強するようになりました。今の私があるのは安芸高田市のインターンのおかげです。 (鳥取大学 農学部3年)

● 第2回 合宿型インターンシップ 2023年3月下旬実施予定(募集開始:2023年1月)

☎秘書広報課 秘書広報係 ☎お太助フォン42-5627